

令和7年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅰ 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
事業内容報告書の概要

地方公共団体名【 壬生町 】
令和7年度に実施した取組の内容及び成果と課題
1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等) ◎実施主体 壬生町教育員会事務局学校教育課 ○連携・協力機関 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 壬生町国際交流協会 ・拠点校1校 壬生町立壬生東小学校 ・日本語指導担当者 拠点校加配教員(県費)1名 日本語指導員(町費)1名
2. 具体の取組内容 (1)地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営 外国人児童生徒教育連絡会議の実施 (2)学校における指導体制の構築 「拠点校」の設置 (3)「特別の教育課程」による日本語指導の実施 「特別の教育課程」による日本語指導実践の共有 (4)成果の普及 ・チャット等を活用し、クラウド上で外国人児童生徒教育に係る事例等について関係学校と共有した ・町の校長会等において、外国人児童生徒理解教育への組織的な体制づくりについて共通理解を図った (10)日本語指導ができる、又は児童生徒等の母語が分かる支援員の派遣 ・日本語指導員の配置
3. 成果と課題 (1)地域の外国人児童生徒等指導体制の推進に係る運営協議会・連絡協議会の設置・運営 ①成果 管理職を中心に外国人児童生徒教育への理解を深める機会を設けた。連絡会議ではより実務的に、外国人児童生徒を受け入れる際の事務的手続きについて学び、初めて外国人児童生徒を学校も安心して当該児童生徒を迎えられる体制を整えた。 ②課題 各学校において常に外国人児童生徒が在籍しているとは限らず、いつでも受け入れ可能な体制づくりについて、管理職だけでなく直接関わりが多くなる担任等にも引き続き周知していくことが課題である。 (2)学校における指導体制の構築 ①成果 外国人児童生徒の在籍が散在している状況の中、拠点校加配教員による巡回指導には限界がある。昨年度に引き続き、日本語指導を必要とする外国人児童生徒が最も多く在籍する学校に日本語指導教員を配置することで、児童に寄り添った支援・指導が実現している。保護者と学校間において良好な関係が築かれ、学校は家庭環境や文化的背景を考慮した適切な進路指導等を実現させている。

②課題

現在は、外国籍の児童が一番多く在籍している学校を中心に日本語指導員を配置しており、他校への巡回指導が困難な状況である。日本語指導員を配置している学校における好事例等を他校にも広げていくことで、日本語指導員の波及効果を狙う。

(3)「特別の教育課程」による日本語指導の実施

①成果

外国人児童生徒が在籍する学級が日本語指導の基盤であること、日本語教室担当教員はそれを支える存在であり、主として当該児童生徒への関わりをもつことは、学級担任の務めであることの確認の場となった。

②課題

日本語指導を必要とする児童生徒に関わる教員の連携

(4)成果の普及

①成果

外国人児童生徒教育への理解の促進

②課題

学校と保護者との一層の連携

	幼稚園等	小学校	中学校	義務教育 学校	高等学校	中等教育 学校	特別支援 学校
本事業で対応した幼児・児童生徒数	人 (園)	4人 (1校)	0人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数		4人 (1校)	0人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)

4. その他(今後の取組予定等)

本町は様々な国籍の児童生徒が在籍する散在地域である。子供たちの文化的背景について理解・尊重しながら日本語指導を行えるように、指導員をはじめとする関係者の知見を深めるための機会を設けていく。